

リオ五輪から学ぶもの

校長
西 聡

本年三月、本校ラグビー部は第十七回全国選抜大会に出場しました。十五人制の全国大会では平成二十五年度のベスト8となった花園大会以来五大会ぶりの出場、試合は予選リーグ初戦で伏見工業に敗れたものの、続く深谷戦と大分舞鶴戦で白星を挙げました。決勝トーナメント進出はなりませんでしたが、伏見工業戦について他県の関係者からは「秋田工業は全国大会が久しぶりで、伏見とは二戦目か三戦目で当たったらしい勝負ができたのでは」と初戦での対戦を惜しむ声が上がっていたと聞きます。現地では、部員のユニフォームを見たラグビーファンが「かさず「秋田工業だ」と口にしてくれるなど、秋工の知名度は健在で、全国大会のプログラムに名前を連ねてこそやはり秋工ラグビーだと感じた次第です。

に練習を積み重ね運動量が豊富に培われたことが初戦の勝利につながり、選手たちのやればできるという自信が勢いを生み、四強入りにつながったとされます。

また、圧巻は女子レスリングの連続金メダルとなった決勝三連戦だったと思います。三試合ともラストギリギリからの劇的すぎる逆転勝ち。私は未明からテレビにかじりついていました。最後の最後まであきらめず粘り強く、闘志満々で臨んだゲーム運び。何というメンタルの強さでしょうか。感服です。勝負の世界は最後の最後まで何が起ころうか分からないということを改めて痛感しました。

もう一つ。陸上競技の四〇〇mリレーです。一〇〇m九秒台が一人もいない日本チームが並び居る外国勢を抑えての堂々の銀メダル。アンダーハンドパスに活路を見出し改良につぐ改良と緻密な練習で自信を深め、そのチームワークで成し遂げた結果は世界を驚かせました。走力で劣っていても走法で勝つ。胸のすく思いでした。

高校ラグビー界は関西や九州勢が体面からしても台頭していますが、リオ五輪のセブンスや他競技が見せてくれた戦略は大いにヒントになると思います。相手は同じ高校生。やってみやれないことはありません。基本を重んじ、謙虚さを失わず、地道にひたむきに泥臭く努力し続ける。その先に目標達成が待っているものと信じます。「夢は実現できるんだと証明できたことがうれしい」(四〇〇mR山縣亮太)

終わりに、部員たちは今、三年ぶりの花園出場と十六度目の全国優勝を目指し毎日厳しい練習を重ねています。ラグビー部の活躍は県民や全国の同窓生に大きな勇気と元気をもたらしてくれます。部員一同この期待をさらなる力に代え、一丸となって前進して参ります。後援会の皆様の温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

必勝を期して

ラグビー部長
草皆 和幸

日頃よりラグビー後援会の皆様には多方面より温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年度、秋田工業高校ラグビー部は創部九〇周年を迎えました。そのような節目の年に秋田中央高校に8対10で敗れてしまい、花園出場を勝ち取るこゝとができませんでした。そのため、ラグビー後援会の皆様には辛い思いをさせてしまい、大変申し訳ありませんでした。心よりお詫言申し上げます。決して、秋田中央高校よりも劣るチームでは無かっただけに、指導者の一人として、責任を痛感しております。

さて、今年度のチームは男子部員が三年生十五名、二年生二〇名、一年生十七名、女子部員が三年生一名、一年生二名の総勢五十五名で十六回目の花園優勝を目指し、一丸となって切磋琢磨しております。これまでの戦績としては三月に行われた東北新人大会において、決勝で仙台育英を31対21で破り、全国選抜大会へ出場することができました。予選リーグでは、伏見工業高校、深谷高校および大分舞鶴高校と同レベルとなりました。初戦の伏見工業高校戦では、久々の全国大会であることや初戦の緊張から、動きが硬く、先制トライを奪ったものの猛攻に遭い、31対76の大敗を喫してしまいました。しかし、この敗戦を引きずる事

無く、チームがまとまり、続く深谷高校戦では33対7、大分舞鶴戦は32対5で勝利することができました。予選リーグを突破することはできなかったものの、今後の成長に期待が持てる内容となりました。また、夏季休業中の強化練習では、OBの胸を借り、ひとりひとりが限界に挑戦し、自らの力量を高めるために一生懸命頑張ってくれました。その後に行われた菅平合宿では、大阪桐蔭高校や佐賀工業、京都成章高校などの強豪校との試合を行いました。東北地区ではあまり体験する事ができないゲームスピードに序盤は戸惑いがあったものの、徐々に慣れ、互角以上の戦いを繰り広げることができました。この菅平合宿を通じて対戦相手から吸収したものをしっかりと出し切ることができれば、秋田県内での優勝はもろろん、全国でも上位に食い込むことができるかと確信することができました。出し切るためにもチーム及び個人の課題を選手一人一人にしっかりと理解させ、練習に取り組みさせたいと思っております。

夏季休業も終わり、花園予選まで練習できる日数もあとわずかとなりました。この限られた日々を大切に過ごし、今年こそは花園予選において、必ずや勝利を掴み取ります。そして、十六回目の優勝という新たな歴史を刻むことができるよう一生懸命頑張っていくしたいと思います。

最後になりましたが、伝統ある秋田工業高校ラグビー部を土台となつて支えてくださっている後援会の皆様には今後とも変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。